

高齢者の救急搬送に係る課題への取組状況について

(令和6年3月末見込み)

地域MC協議会	構成消防本部	構成市町	1. 地域包括ケアシステムやACPに関する議論の場、消防機関が参画していますか。	2. 地域MC協議会に、地域包括ケアシステム関係者が参画していますか。	3. 消防機関や地域包括ケアシステム関係者などが参画する多職種連携会議で、高齢者の救急搬送に係る課題の協議・情報共有を行っていますか。	4. 多職種連携会議を開催するにあたり、地域で課題があればご記入ください。	5. 関係機関が連携し情報共有を図るための取組や、高齢者の救急搬送に係る課題への取組状況をご記入ください。	6. その他、高齢者の救急搬送に係る課題についてご意見等がございましたら、以下にご記入ください。(自由記述)	
桑名	桑名市	桑名市	①参画している	①参画している	①行っている	研修会においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの対面式からオンラインでの研修会に切り替え開催してきましたが、より活発な意見交換と連携を進めるためには、集合形式での研修会を開催したいという声があった。今年度から集合形式での研修会を再開できるようになったが、参加者が固定化されてきているので、内容の充実を図るとともに、参加しやすい研修会の工夫が必要と感じている。	介護事業所等からの救急搬送時に救急隊および救急医療機関へ必要な情報がスムーズに伝わるよう「緊急時の情報連絡票」と「利用の手引き」を作成し、これまでも普及啓発に取り組んできた。しかしながら、緊急時の情報連絡票や救急医療情報キットを知らない、知っているが患者・利用者に勧めてはいない、という専門職もいるため、関係者に向けて、更なる普及啓発を行う必要があることが課題となっています。	看取りの方であっても、急変時に救急車を呼ぶことがあり、ACPやDNARIについても議論を重ねていく必要がある。	
		木曾岬町	①参画している	①参画している	①行っている		桑名市と合同で、消防本部と多職種の合同研修会の実施。「緊急時情報連絡票」の普及啓発		
		いなべ市	①参画している	①参画している	①行っている	DNARの意思確認がある場合でもかかりつけ医にその場で引き継がない場合は救急車を呼ぶと医療機関に搬送するまで救命処置をせざるを得ないという法律上の縛りがある点、検討してもらいたい。	施設からの搬送時、情報共有をスムーズするため共通の緊急時情報連絡票について検討し作成。施設職員の救急車への同乗困難な場合、連絡票の利用で搬送可能、との取り決めをした。	救急搬送されても入院に至らなかった場合(特に夜間)、一人暮らしの方、身寄りのない方など帰宅する手段がない、夜間も運営している福祉タクシーなどの資源がないため、医療機関の困り感につながっている。	
		東員町	①参画している	①参画している	①行っている		・ICT(いなべ地域ケアネット)による情報共有 ・「高齢者等の救急搬送に係る手引き」の今年度中の作成に向け取組中。	高齢者の搬送など	
四日市	四日市市	四日市市	③未定	①参画している	①行っている		・高齢者福祉施設等における救急要請の手引き 高齢者向け施設における速やかな対応のため、緊急事態対応フロー等について記載し、施設に配布している。 ・救急隊情報提供カード 夜間休日等、高齢者向け施設等の職員が少ない場合に氏名、緊急連絡先や、119番通報時の発生原因、主治医等を記入し救急隊に渡すことで、速やかな情報提供が行えるよう活用を周知している。 ・救急医療情報キット 救急搬送時に独居高齢者等の緊急連絡先や持病、かかりつけ医等の情報を救急隊に共有するための取組。 ・救急搬送時の意思表示シート(わたしの気持ち) 救急搬送や延命治療における本人の希望を家族や医療・介護関係者が共有し、救急搬送時には救急隊が確認できるようにしている。	救急搬送時にケアマネジャー等が同乗を依頼される場合があるため、搬送時に必要な情報を提供する救急隊情報提供カードの周知、活用を行っていく必要がある。 ・独居や施設入所者など身寄りの少ない方について、緊急でない場合であっても救急搬送される事例があり、退院後の出口問題だけでなく入口問題についても課題である。また入院が必要なく帰宅となった際の帰宅手段がない事例もよくみられ、特に夜間に救急車で搬送された場合は対応が難しくなっている。	
		菟野町	③未定	③未定	③未定				
		朝日町	③未定	③未定	③未定				
鈴鹿・亀山	鈴鹿市	川越町	③未定	③未定	④その他	消防機関が参加していないが、多職種連携会議の場では救急搬送に係る課題の共有などは行っている。	身寄りのない方の搬送支援において、病院側から受け入れが難しいことなど		
		鈴鹿市	①参画している	③未定	①行っている		特になし。	高齢者の救急搬送については、特に高齢者施設での対応に課題があり、職員が施設が離れることができない場合でも救急車への同乗を求められるケースや、治療後に施設等へ戻すための移動が施設の負担になるケースがある。 一方、病院では患者の情報共有と患者家族の連絡先を確認する必要があり、施設職員への協力を求めていることなど、施設・救急・病院の相互理解や連携がされていない現状がある。 また、情報提供シートについても、全施設で活用はされておらず、施設が独自で作成する情報提供シートもあるため、確認する事項にバラつきがあり、救急隊員が混乱するケースがある。	
津・久居	津市	津市	④その他	参画する重要性は認識しているが、具体的な日程や議題に関しては未定。	④その他	予定なし。	消防機関が参画する会議を行っていない。	DNARIに関する、法律面の確認をしている。また、DNARの実用に関しては多職種への周知及び聞取りを検討している。	
		津市	③未定	③未定	①行っている	津市在宅療養支援センター連携体制部会において、サービス付高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの在宅施設において、看取り予定であった対象者にもかかわらず、施設の夜間職員体制が不十分であるため、救急搬送要請となる事案が増えているため、在宅施設及び支援診療所への働きかけが必要との意見がある。	救急搬送時に介護支援専門員が救急車への同乗を依頼される場合があるため、病院に必要な情報を提供し「救急医療情報用紙」を津市在宅療養支援センターで作成し、可能な事業所から使用を開始しており、今後同センターにおいて、効果的な活用の検証を行っていく予定。	基幹型地域包括支援センターにおいて、安否確認等に同行した際、救急車への同乗を求められることがあり、支援を行っていたケースでない場合、情報がないため対応に苦慮することがある。	
伊賀	伊賀市	伊賀市	①参画している	③未定	①行っている		患者さんの緊急連絡先等を記入できる「情報・連絡カード」のマイナーチェンジを協議。多職種間の連絡ツールとして活用しているお薬手帳カバーに挟み込むことにより、開封りのある専門職間で患者さんの情報を共有できたり、救急搬送時の患者情報の確認ができるよう取り組んでいる。	身寄りのない方の救急搬送やその後の対応など。	
		名張市	①参画している	③未定	②行う予定である	地域包括支援センターとして、各病院地域連携部署等に情報共有及びカンファレンスを積極的に実施を依頼している。救急搬送に関しては、伊賀市との輪番体制をとっているため、市外搬送を含め名張市だけの検討はしにくい。	・高齢者世帯、独居高齢者が救急搬送されるとき、地域の民生委員が同行を依頼されたり、担当ケアマネージャーが呼び出される。前年度と同じく、医療同意もできない状況で、負担感が増加している。 ・地域包括支援センターブランド「まちの保健室」において、元氣なうちにサロン等通いの場において近隣と関係を構築し、まちの保健室への相談が予防的に行えるようにポピュレーションアプローチに努めている。	医療機関や介護事業所等関係機関との連携においても、説明を理解し同意を得ることが困難であったり、通院や契約行為が難しい事例も多い。緊急性によっては、本人の同意がなくても情報連携ができる仕組みも必要。	

地域MC協議会	構成消防本部	構成市町	1. 地域包括ケアシステムやACPIに関する議論の場、消防機関が参画していますか。	2. 地域MC協議会に、地域包括ケアシステム関係者が参画していますか。	3. 消防機関や地域包括ケアシステム関係者などが参画する多職種連携会議で、高齢者の救急搬送に係る課題の協議・情報共有を行っていますか。	4. 多職種連携会議を開催するにあたり、地域で課題があればご記入ください。	5. 関係機関が連携し情報共有を図るための取組や、高齢者の救急搬送に係る課題への取組状況をご記入ください。	6. その他、高齢者の救急搬送に係る課題についてご意見等がございましたら、以下にご記入ください。（自由記述）	
松阪	松阪広域	松阪市	①参画している	①参画している	「松阪市地域包括ケア推進会議」委員である医師が地域MC協議会の委員でもある。	①行っている	地域包括ケア推進会議において、高齢者施設からの救急搬送に関する課題を取り上げ、各部門（医療機関、消防、介護事業所）から情報提供していただくなど、それぞれの状況を把握し、理解、連携に繋がるよう努め、令和3年5月に「高齢者施設からの救急搬送マニュアル作成のためのガイドライン」を作成、配布した。 高齢者施設は、その役割により様々な職種が存在し、必要な職員配置等の基準も異なるため、各施設の条件下で可能な限り最善の対策を検討し、対応力向上に努める必要がある。また、かかりつけ医や消防署等の関係機関との連携を重視し、このガイドラインの周知を引き続き継続する。	高齢者施設だけでなく自宅からの搬送においても、患者の病状、既往歴、服薬状況等を把握するために平成30年10月「救急情報キット」、令和2年9月松阪市版エンディングノート「もめんノート」を作成、配布している。もめんノートに関しては、包括支援センターが「書き方講座」を開催しているが、なかなか記載が進まないのが現状である。記載情報の更新や、話し合いなどが課題として考えられる。	
		多気町	①参画している	③未定		①行っている	消防団により高齢者の持病や服用している薬などが記載できる救急カプセルを配布している		
		明和町	①参画している	③未定		①行っている	多職種連携会議に消防の参画に繋がらなかったため、今後計画していく。	救急医療情報キットの配布事業を実施し、年1回消防署と情報交換を行っている。	高齢者の搬送において、身寄りのない高齢者や単身高齢者世帯について、同乗者の確保ができない場合、また親類への連絡が取れない場合、職員が同乗を求められるケースがあり対応に困るケースがある。
	紀勢広域	大台町	①参画している	①参画している		①行っている	(今のところありません)	・地域包括ケア推進協議会の開催 ・生活支援コーディネーター(社協)との情報交換会を実施 ・伊勢地域の在宅医療介護連携を図るため大台厚生病院、大台町、大紀町で情報交換会を実施 ・松阪管内で在宅医療介護連携を図るため構成市町で情報交換会を実施 ・頻回な救急要請がある方は地域包括支援センターなどの相談機関に情報提供を頂き課題解決に向け介入している	・救急搬送時の課題はない。身寄りのない高齢者が救急搬送されたとき、搬送先の救急外来で担当ケアマネが医療同意を求められること。
		大紀町	③未定	③未定		②行う予定である	身寄りのない方の医療に係る支援(手続き、身元保証)	急性期3病院との支援の取組についての連携はとれていない。	なし
		南伊勢町(旧南島町区域)	③未定	③未定		③未定		救急との連携について、今後関係機関で検討を行う予定	・救急搬送をされても入院とならなかったケースで、身寄りのない方等の帰宅方法について ・救急搬送を要請した際に同乗を求められても対応が難しいケースもある
三地域	伊勢市	伊勢市	③未定	③未定		①行っている	救急とACPIについて、各専門部会の部長、地域包括などから出された現状を把握。課題などの抽出を行い、情報共有できるツールを構築している。	・身寄りのない人の救急搬送への同乗 ・救急車が必要な状況であっても要請できず支援が必要なことがある	
		玉城町	③未定	③未定		①行っている		個々のケースについては情報共有できているが、課題の把握は不十分である。	身寄りのない方が救急搬送される場合、同乗を求められるが、基本情報が不明な場合があり困る。また、入院に至らなかった場合の本人の送迎についても困る。
		度会町	③未定	③未定		③未定	町内で完結することは難しく、近隣市町との会議が必要	伊勢地区在宅医療・介護連携支援センター「つながり」を拠点に、「つながりネットワーク」を活用したICT連携を進めている	
	志摩市	南伊勢町(旧南勢町区域)	③未定	③未定		③未定		救急との連携について、今後関係機関で検討を行う予定	・救急搬送をされても入院とならなかったケースで、身寄りのない方等の帰宅方法について ・救急搬送を要請した際に同乗を求められても対応が難しいケースもある
		志摩市	③未定	③未定		③未定		70歳以上の独居高齢者や高齢者のみの世帯等に救急医療情報キットを民生委員等の協力を得ながら配布し、医療の情報などを確認できるようになっている。	
	鳥羽市	鳥羽市	③未定	③未定		③未定		①見守りシール(認知症等高齢者の衣服や持ち物にQRコードを添付し、身元等の早期特定につなげる)事業 ②一人暮らしや高齢者世帯訪問調査時に家族等関係者の連絡先やかかりつけ医などの確認し、緊急連絡カードで確認している。	離島では一人暮らしや高齢者世帯が多く、緊急時に救急につながるまでの支援が必要であることから、日常からの見守りの体制づくりに課題がありそれに向けて取り組んでいます。
東紀州尾鷲地区	三重紀北	尾鷲市	③未定	③未定		③未定			
		紀北町	③未定	④その他	わからない	④その他	行っていない	福祉保健部局が高齢者の救急搬送にかかる課題を把握できていない 今後課題の共有や、課題解決に向けた方策をともに消防部局とも共有していけたら幸いです。	
紀南	熊野市	熊野市	①参画している	④その他	地域包括ケアシステムの関係者として参画している訳ではないが、地域包括支援センターの管理者を兼任している健康・長寿課長が会議に参画している。	③未定	令和4年度に在宅医療・介護連携推進会議へ消防職員に参画してもらったが、今年度の参加については未定である。	・75歳以上の独居高齢者等に緊急情報キットを配布し、緊急時に医療や家族等の連絡先を把握できるようにしている。 ・心肺蘇生等に関して本人の意思が反映されるよう、医療と介護に特化した簡易版エンディングノートを作成し、地域のサロン等で啓発を行っている。	・救急搬送されて入院が必要となった高齢者が身寄りのない場合の対応。 例)病院からケアマネや市職員に連絡があり、入院や治療の同意、身元引受人を求められることがある
		御浜町	①参画している	④その他	令和4年度に在宅医療・介護連携推進会議へ消防職員に参画していたが、今年度については必要時に参画してもらう予定である。	③未定	令和4年度に在宅医療・介護連携推進会議へ消防職員に参画していたが、今年度の参加については未定である。	65歳以上独居高齢者(自宅療養に不安を抱えている夫婦)や64歳以下の障がい者などに救急医療情報キットを希望者に配布し、緊急時に医療や家族等の連絡先を把握し関係機関で情報連携ができるようにしている。	独居高齢者や高齢夫婦などの世帯が増えてきているのと複合的な課題を抱えている世帯などもあり、ケアマネをはじめとした支援者が救急要請する場面も増えてきています。その際に、支援者の負担が増えないように関係機関との連携が必須であり、今後も連携するための手段を検討していきたいと思っています。
		紀宝町	①参画している	①参画している	必要に応じて出席をお願いしている	③未定			救急キットの普及、活用。